

奥羽大学報



キャンパス見学会

109

目次

文部科学省薬学教育指導者ワークショップ／	
平成19年度入学試験日程	2
第3講義棟新築工事地鎮祭／キャンパス見学会／	
オープンキャンパスの開催	3
第38回歯科学学生総合体育大会／	
第11回慶熙大学—奥羽大学歯科大学学生親善体育大会	4
(文)第2回就職“HONKI”セミナー／	
大学院歯学研究科社会人特別選抜／大学院歯学研究科入試日程	5
学位記授与式／大学院特別セミナー／	
平成18年度大学院第3学年次、2学年次研究経過発表会	6
附属病院	7
第14回奥羽祭のお知らせ／保護者懇談会／	
第15回奥羽大学公開講座	9
セクシュアル・ハラスメント防止職員研修会／講義棟改修	10
国際学会	11
奥羽大学文学会第49回発表会／私が薦める一冊の本	13
同窓会	14
同窓生のひろば	15
余滴	16
学校法人晴川学舎平成17年度決算報告	17
人事／慶弔	19
行事予定	20

文部科学省薬学教育指導者ワークショップ

本ワークショップ（WS）は、文部科学省が主催し、国立14、公立3、私立49の薬学部を持つ全大学が参加し、8月31日(木)12:50～9月1日(金)13:00に共立薬科大学で行われました。このWSは、今年度よりスタートした薬学部6年制教育のカリキュラムの再点検と、より良い薬学教育実施のために直面する具体的な課題やその改善方策を話し合う場として行われました。

今回は、薬学部の導入教育および基礎薬学教育に的を絞って、2つのグループ別セッション「早期体験学習実施への対応について」「モデル・コアカリキュラムを踏まえた薬学教育の充実」が行われ、取り組み状況、解決すべき課題、解決への方策を各グループで纏め上げ、続いて発表・合同討論、最後に総合討論が行われました。薬学教育モデル・コアカリキュラムは、今まで科目担当者の裁量に任されていた教育内容を、薬学教育全体の視野から見直し、作成されたものでありますが、解決すべき課題の中の一つに、教員のモデル・

コアカリキュラムに対する理解不足が挙げられていました。その他、早期体験学習の中でSGD（small group discussion（少人数討論））の取り入れについて、成果は上がるものの、担当教員の不足に苦慮している大学が目立ちました。モデル・コアカリキュラムの再検討を望む声や近い将来に解決すべき課題のいくつかが示されましたが、全体として6年制薬学教育は順調にスタートしたように見受けられました。

最後に、WSを閉会するに当たり、文科省担当官から次のようなコメントがありました。国家試験や6年制卒業生の大学院についてはこれから検討されること。また、問題解決型薬剤師の育成を行うために医・歯学部に無い卒論研究の必修化が行われていると文科省は理解していることや、シラバスの中に薬学教育モデル・コアカリキュラムの到達目標（SBO）がしっかり盛り込まれているかを点検するよう要望された。そして、学部教員の薬学教育への意識の向上をさらに図るよう各出席者に求められました。

(野沢 幸平)

平成19年度入学試験日程

学 部		歯 学 部			薬 学 部		
区 分		出願期間	試験日	合格者発表	出願期間	試験日	合格者発表
推薦入学		11/1(水)～ 11/9(木)	11/11(土)	11/13(月)	11/6(月)～ 11/21(火)	11/25(土)	11/28(火)
一般選抜入学	一期試験	1/9(火)～ 2/5(月)	2/7(水)	2/8(木)	1/9(火)～ 2/1(木)	2/5(月)	2/7(水)
	二期試験	2/13(火)～ 2/28(水)	3/2(金)	3/3(土)	2/19(月)～ 3/2(金)	3/6(火)	3/8(木)

第3講義棟新築工事地鎮祭

第3講義棟新築工事にあたり、本学体育館脇（南側）の建設予定地にて、平成18年8月7日（月）11時より、安積國造神社の宮司による地鎮祭並びに安全祈願祭を執り行いました。

神事では、影山英之理事長による鍬入れのほか、理事長及び清水秋雄学長が玉串を捧げるなど、関係者一同が工事の安全を祈願いたしました。

第3講義棟は鉄筋コンクリート造・地上3階、延べ床面積2,366.70㎡で、平成18年8月7日より工事を開始し、平成19年5月完成の予定です。身障者対応の昇降機を設置し、人にやさしい、省エネルギー措置をすべてに施した建築物となっております。プレストレスコンクリート造（PC工法）設計により、教室に広い空間スペースを確保いたしました。講義室は1階に120人収容の階段教室を3室、2階と3階に1室ずつ、収容231人の階段教室を2階3階にそれぞれ1室設けます。また、最新のAV装置が各教室に完備されます。



キャンパス見学会

平成18年度のキャンパス見学会を8月25日（金）・26日（土）の2日間に亘り開催した。参加数は2日間で歯学部45名、薬学部95名の合計140名で、秋田県から香川県まで広い地域から参加していただいた。

当日は進学相談、キャンパス見学、実習体験をそれぞれの学部に分かれて実施したが、学部の特長を生かした実習体験は特に好評であった。

全体として短い時間ではあったが、参加者からは内容が濃く充実していたとの声が聞かれた。



オープンキャンパスの開催

平成18年度のオープンキャンパスを次の日程にて実施します。当日は歯学部・薬学部の入試要項配布のほか、個別での進学相談を行います。

日 時：10月15日（日）10:30～12:00

会 場：本学5号館 512教室

内 容：個別による進学相談及び入試関係資料コーナーの設置

第38回歯科学学生総合体育大会

結団式

歯学体開催前の7月24日(月)第2講義棟にて、歯学体結団式が行われた。各競技が奥羽大学という1つのチームのために力が発揮できるよう、出場者全員を対象として開催された。学友会会長笹森荘子さん(歯4年)が代表で選手宣誓を行った。本学の第38回大会への出場数は、冬季部門3部門、夏季部門14部門。参加者になると、およそ230名となった。



結果は以下の通り。

○結果

総合25位 デンタルポイント24ポイント

○バスケットボール部

男子3位

○アーチェリー部

男子団体準優勝

柴原栄一郎(歯4年) 小松 泰典(歯4年)

岩崎 隆行(歯2年) 井田 裕人(歯4年)

山崎 崇秀(歯2年)

○陸上競技部

総合12位

男子800m 8位 薄 壮一郎(歯2年)

男子1500m 3位 清水 峰太(歯2年)

男子5000m 2位 清水 峰太(歯2年)

4位 河本 隆大(歯1年)

男子3000m SC 2位 河本 隆大(歯1年)

○卓球部

男子ダブルス 3位

黒木 毅(歯6年)、金本 芳大(歯4年)

男子シングル ベスト8

金本 芳大(歯4年)、重本 心平(歯1年)

新人賞

重本 心平(歯1年)

○硬式庭球部

男子団体15位

女子団体13位

総合12位

○ゴルフ部

男子団体7位 総合10位

○柔道部

男子団体5位

個人無段の部 2位 江田 政嗣(歯2年)



バスケットボール部男子3位

第11回慶熙大学—奥羽大学 歯科大学生親善体育大会

8月11日(金)から13日(日)の3日間、韓国慶熙大学校歯科大学を会場に恒例の歯科学学生親善体育大会が開催され、今年の種目はバスケットボールでした。本学からの参加者は、団長の鈴木陽典学生部長、バスケットボール部の歯学部学生12名(男子7名、女子5名)と私の合計14名でした。今回は、ほぼ全員が初めての韓国訪問でしたので出発前はどこか緊張した表情が見られましたが、仁川空港に到着すると、2名の日本語が堪能な先生と数名の学生たちの出迎えを受け安心いたしました。慶熙大学に移動した後、19時30分から新築の慶熙歯医学館新興プラザで歓迎レセプションが行われ、両校の教員と学生の紹介が行われました。翌朝10時より第一試合(男子学生のみ)、昼食をはさみ15時から第二試合(OB混成)がありました。第一試合は親善ムードの中にも気合いが入り、結果は51対31で奥羽大学の勝利となりました。今回の訪問はフラ

イトの関係で慌ただしいものとなりましたが、その分学生や教員同士の交流は濃密だったと思います。

来年は、慶熙大学の皆さんを郡山にお招きして同じ種目で体育大会が開催されます。本学のバスケットボール部OBの方は、ぜひ応援にいらしてください。最後に今回のスポーツ交流に対して御高配賜りました父兄会ならびに事務局関係各位に厚く御礼いたします。



慶熙大学との親善体育大会

(バスケットボール部顧問 釜田 朗)

(文) 第2回就職“HONKI”セミナー

今年度2回目となる就職“HONKI”セミナーが、9月13日(水)いわきワシントンホテルで開催され、本学文学部から約10名の学生が参加した。企業からの出席は70社を数え、就職内定を目指す学生との熱を帯びた面談で、セミナーは活況を呈していた。

県内の私立5大学が主催するこのセミナーへ、本学文学部から参加するのは今回が最後になる。締めくくりの意味でも4年生全員の就職内定獲得を願っている。



文学部第2回 HONKI セミナーいわき会場

大学院歯学研究科社会人特別選抜

大学院歯学研究科では、時代の変遷と社会からの要請にかんがみ、来年度より昼夜開講制を整え、特別選抜による社会人学生の募集を行います。

一般入学試験と時期を同じくし、第Ⅱ期選抜の10月21日(土)と第Ⅲ期選抜の来年2月24日(土)に、面接を試験科目とする入学試験を実施します。社会人特別選抜への出願資格は、入学時に既に就業しているか、又は入学直後に就業することが見込まれる方としています。

授業時間帯は従来の平日1～4時限(9:00～16:30)に加え、夜間の5時限目(18:00～19:30)と6時限目(19:45～21:15)を設け、土・日曜日や夏季休暇期間等に集中的な講義を計画し、社会人の方が学習しやすいカリキュラムを準備します。

診療に携わる歯科医師等の皆様で、最新の歯科知識を身につけようとお考えの方は、学生募集要項を送付いたしますので、大学までお問い合わせください。

大学院歯学研究科入試日程

平成19年度大学院歯学研究科の学生募集は、8月26日(土)に第Ⅰ期の選抜試験が行われた。今後の日程は下記のとおり。なお、入試日程には社会人特別選抜を含んでいる。

	出願期間	試験日	合格者発表
第Ⅱ期	平成18年 9月11日(月) } 平成18年 10月19日(木)	平成18年 10月21日(土)	平成18年 10月25日(水)
第Ⅲ期	平成19年 1月9日(火) } 平成19年 2月22日(木)	平成19年 2月24日(土)	平成19年 2月28日(水)

学位記授与式

7月26日(水) 学位記授与式が執り行われ、本学専攻生の及川均氏に博士(歯学)の学位記が授与された。学長より今後一層の研鑽を積まれるようにとののはなむけの言葉があった。氏は「ボンディング材の保管および操作条件が歯質との接着強さに及ぼす影響」と題する論文により学位を申請しており、これが審査の結果認められたものであった。



大学院特別セミナー

去る8月3日(木)、山本照子東北大学大学院歯学研究科教授を講師として「歯の移動における生体反応」を聴講した。

講演は、歯の移動に伴う痛みに関する臨床的話題の提供で始まった。免疫組織化学的手法や生体染色法を駆使し、神経シグナルの中樞への経路について神経線維の同定、歯の移動に伴う痛みと骨リモデリングとの関係について多くの実証結果が示された。メカニカルストレスによる骨表層でのリモデリングと内部の骨細胞とのネットワークに着目していた。蛍光染色した骨細胞を共焦点顕微鏡で観察し、骨構造を再現した3次元構築画像は素晴らしいものだった。臨床歯科医にも分りやすい実に見事な講義となった。大学院生や生化学分野の先生方からの基礎的かつ臨床的な質問に丁寧かつ謙虚に応答され、時間を大幅に過ぎて終了した。

本学の大学院生は、実証結果を積み重ねて本質に迫っていく山本照子教授の面白い研究に心が揺り動かされたようだ。

(水室 利彦)

平成18年度大学院第3学年次、 2学年次研究経過発表会

平成18年度の研究経過発表会が、8月24日(木) 午前10時30分から午後4時まで病院棟5階の臨床講義室で行われました。

本年の研究経過発表会は、研究活動の活性化の一環として3年次生の大学院生の研究経過の発表に加えて、2年次生の研究経過(計画)の発表も行われました。3年次生では現在進めている研究内容・結果について報告し、2年次生では研究テーマと内容、計画を中心に報告してもらい、それらに対して大学院教員が種々のアドバイスをし、今後の研究遂行に役立ててもらうことを目的に開催されるものです。また指導にあっている教員からもコメントがあります。

今回の発表会には、大学院教員をはじめ、各講座の教員、大学院生が多数参加しました。発表会は研究科長の開会の挨拶で始まり、大学院運営委員の司会進行により、午前中は3年次生6名の研究経過発表がありました。午後は2年次生11名の研究計画の発表が2セッション(専攻科目の領域)に分かれて行われました。それぞれの研究経過報告・研究計画報告に対しては参加者の教員から活発な質疑やアドバイスがあり、熱心に討論が行われました。本年度は2年次生の発表が初めて行われましたが、研究内容や計画への貴重な意見やアドバイスも多く出され、研究の早期からの取り組みや活性化に向けて有意義な発表会となりました。

(鈴木 康生)



附属病院

協力型臨床研修施設派遣式

去る7月28日(金)、平成18年度歯科医師臨床研修Aプログラム24名中、前期派遣臨床研修歯科医13名の協力型臨床研修施設派遣式が挙行された。前期派遣臨床研修歯科医13名は、呼名起立後に清野附属病院長より医療安全と研修心得についての訓示を受け、13名一人一人が派遣先研修施設名と決意表明を述べ、参列者の激励の拍手に見送られた。前期派遣臨床研修歯科医13名は、10施設(長野県1、東京都1、茨城県1、栃木県2、福島県4、山形県1)に派遣され、本年8月1日(火)より11月30日(木)までの4ヶ月間の研修の後、本学附属病院に戻り今年度末まで研修を継続する予定である。

今年度は歯科医師研修医制度の元年であり、本学附属病院のみならず協力型研修施設においても研修のあるべき姿を模索する中の派遣であるが、必ずや研修歯科医の先生方は日々研鑽され、より多くの経験を積まれることと期待しております。

今後本学附属病院はもとより、より多くの協力型研修施設と連携し、より充実した研修システムを構築していくこと、かつ知識・技術のみならず世に貢献できる青年歯科医師の育成が本学の責務であることを痛感しました。

(杉田 俊博)



平成19年度歯科医師臨床研修施設見学・説明会

平成18年7月18日(火)・3名(1名は他校出身者)と8月8日(火)・31名(日本歯科大東京、日本歯科大新潟、岩手医科大学・歯、鶴見大・歯、神奈川歯科大、北海道医療大)に平成19年度歯科医師臨床研修施設見学および研修プログラムと選考試験に関する説明会が実施された。両日とも13時30分より病院棟5階の臨床講義室に高橋、鎌田教授および杉田、高禄、清野(晃)、山森、鈴木(史)、金、各プログラム責任者、病院庶務の参加の下で実施され、説明会責任者・高橋より単独型と複合型プログラムの特徴説明がなされ、各プログラム責任者と副プログラム責任者6名の紹介があり施設見学(放射線科、臨床研修室、総合受付、薬局、予診科、小児歯科、総合歯科第一診療室、矯正歯科、研修医技工室、総合歯科第二診療室、口腔外科外来、病棟、図書館、学生ホール、シミュレーション実習室)に移った。40分の見学の後説明会会場に戻り、質疑応答があり終了となった。

(高橋 和裕)

平成19年度歯科医師臨床研修選考試験

平成18年8月19日(土)に平成19年度の第1回歯科医師臨床研修選考試験が実施された。受験者は本学6年生と既卒者85名で、13時に臨床講義室に集合し、面接試験について説明があり、13時30分より7名が一つの班となり、中央棟2階図書館個人閲覧室で実施された。試験の形式は病院長より委嘱された研修プログラム責任者を含む面接官が2人一組で1人の受験者に対し、7分間で実施された。午後3時に面接が終了し、引き続き面接補助員と事務職員を含む面接試験関係者で反省会がもたれた。第2回選考試験は9月16日(土)に予定されている。

(高橋 和裕)

平成18年度第1回歯科医師臨床研修指導 歯科医講習会

平成18年8月5日(土)から6日(日)の2日間にわたり平成18年度第1回歯科医師臨床研修指導歯科医講習会が清稜山倶楽部と奥羽大学厚生施設「無垢苑」で行われた。本年度歯科医師臨床研修が必修化されてから、初めての開催である。ディレクターを、宮城罔泰福島県歯科医師会会長と清野和夫奥羽大学歯学部附属病院長の両氏がつとめ、チーフタスクフォースを俣木志朗東京医科歯科大学大学院教授と本学の齋藤高弘教授がつとめた。また、タスクフォースには鎌田政善教授、高橋和裕教授、鈴木陽典教授、横瀬敏志教授と清野晃孝があたった。

参加者は北海道から京都に至る全国各地から協力型施設を予定されている20名の先生方と本学から4名の助手および病院助手を加え24名であり、4グループに分かれて実施された。開講式の後、セッションⅠの相互紹介、コンセンサスゲームによりアイスブレイキングが行われた。レクチャーⅠの「新しい歯科医師臨床研修について」と題した講演が田村貴彦厚生労働省臨床研修審査官からあり、午後のセッションⅡではKJ法、問題点の抽出と対応についてグループ作業を行い、その結果を発表し全体討議を行った。セッションⅢでは研修目標について同様に説明、グループ作業、発表、討議解説が行われた。続いて清野病院長から医療安全管理の講演があり、夕食後、総合討論会でさらに初日の内容を振り返り理解を深めた。2日目のセッションⅤでは、研修方略について前日の目標の修正も併

せて作業が行われた。午後には、研修評価について行い、一連の作業の集大成が行われた。セッションⅦでは今回のワークショップの総括を俣木教授が行い、参加者の顔からは皆、疲労の中にも仕事をやり遂げたすがすがしさが覗え、有意義な2日間であったとの感想が多く聞かれた。

閉講式では、病院長から参加者全員に修了証書が授与された。今回、参加の先生方が近い将来奥羽大学の協力型施設に名乗りを挙げ、さらに歯科医師臨床研修制度が充実することを期待している。

(清野 晃孝)



第14回 奥羽祭のお知らせ

テーマ：LAST SESSION

10月14日(土)

時間	内容
9:30～	公開講座 「食事を美味しく食べるために」 佐藤 純 歯学部助教授 「ボケを防止するために」 荒井裕一朗 薬学部教授
10:00～16:30	模擬店・室内展示
10:00～11:00	チョコットライブ
11:15～12:30	うまい店コンテスト
13:00～13:45	フィーリングカップル
14:00～15:00	ピッタンココカン 司会：タイムマシーン3号
15:15～16:15	ビンゴ大会
18:00～20:00	本祭～パフォーマンスコンテスト～

10月15日(日)

時間	内容
10:00～16:30	室内展示・模擬店
11:00～13:00	スーパーお笑いライブ (有料) ・アンガールズ ・ますだおかだ ・パペットマペット ・小梅太夫 ほか3組
13:00～14:00	○×大会
13:00～14:15	運命の赤い糸
14:30～15:30	巨大ジェンガ
16:00～17:00	野外お笑いライブ (無料) ・桜塚やっくん ・U字工事

保護者懇談会

歯学部、文学部の保護者懇談会を10月14日(土)に開催します。前期定期試験の結果等をもとに、保護者の方とクラス担任が懇談をする機会です。当日は、公開講座や大学祭も行われておりますので、ぜひ大学へ足をお運びください。

薬学部につきましては、クラス担任より対象となる学生の保護者に対して直接ご案内申し上げます。

第15回奥羽大学公開講座

本学では、毎年生涯学習の一環として、専任のスタッフによる公開講座を開催しています。

この秋、みなさんお誘いあわせの上、ぜひお越しください。

- メインテーマ 『高齢社会を健康に過ごすために』
- 日時 9月30日(土)・10月14日(土)
開場 9:00～
前半 9:30～10:30 (60分)
休憩 10:30～10:45 (15分)
後半 10:45～11:45 (60分)
- 会場 本学 5号館 513教室
- 受講費 無料
- 対象者 どなたでも参加できます。
※予約不要
- 定員 約176名(定員になり次第、入場を制限します。)
- 問合せ 学事部 企画広報課

期日	テーマ・講師
3回目 9/30(土)	お口からはじめる老化防止 宗形 芳英 歯学部助教授
	老化防止の薬はできるか? 曾根 孝範 薬学部教授
4回目 10/14(土)	食事を美味しく食べるために 佐藤 純 歯学部助教授
	ボケを防止するために 荒井裕一朗 薬学部教授

※第1回目8/26(土)、第2回目9/9(土)の公開講座は終了いたしました。

セクシュアル・ハラスメント防止職員 研修会

本学教職員を対象としたセクシュアル・ハラスメント防止のための研修会が、平成18年8月30日(水)、本学第2講義棟で開催されました。講師には(財)21世紀職業財団のセクシュアル・ハラスメント防止従業員研修専任講師である工藤鏡子氏をお招きしました。清水学長の挨拶に続いて工藤鏡子氏の講演が行われましたが、講演では厚生労働省雇用均等・児童家庭局監修の「職場のセクシュアル・ハラスメント防止のために(管理職用)」がテキストとして使用され、この内容に沿った研修が行われました。講演は、セクシュアル・ハラスメントへの対応の必要性、均等法21条及び指針、セクシュアル・ハラスメントの起こる原因と背景など多岐にわたりました。以下に講演の一部を紹介します。

大学においてセクシュアル・ハラスメントが発生しますと、女子学生の就学環境や女性職員の職場環境の悪化を招き、就学意欲や労働意欲の低下により、能力発揮を阻害してしまいます。セクシュアル・ハラスメントが起きてしまった場合に、大学として速やかに対応することが大切なのは勿論ですが、この問題への対応として何よりも重要なのは「未然の防止」です。教職員一人一人がどのような行為がセクシュアル・ハラスメントに該当するのかという正しい認識を持つことにくわえて、セクシュアル・ハラスメントが起こる原因と背景を理解する必要があります。

この他にも、セクシュアル・ハラスメントを起さないために教職員が注意すべき事項や、さらに被害者にならないための対応などについての講演がありました。講演終了後に出席者との間で活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに研修会が終了しました。

最後に、セクシュアル・ハラスメント防止職員研修会の出席状況について報告します。校務による欠席者ならびに産休・療養休暇取得者46名を除くと、当日出席可能な教職員数は372名となりますが、この中の369名という

実に多くの教職員が研修会に出席しました。今回開催された研修会への出席率は99.2%と極めて高く、本学教職員のセクシュアル・ハラスメント防止に対する関心の高さを示しているものと考えられます。

(久野 弘武)



講義棟改修

本学の教育環境の整備のため7月7日(金)から改修をしておりました講義棟は、順調に工事が進行し8月28日(月)に竣工いたしました。この改修により講義棟西側から正面ロビーに通じる通路を新設し、附属病院棟からの移動が便利になりました。

1階の講義室については132人収容の講義室3室ありますが、各講義室間の内壁を遮音材で補強するなどの改修を行いました。また、2階には以前の研修室フロアの段差を撤去するなどして60人収容と80人収容の2つの研修室を設けるとともに、研修室1と研修室2の間はパーティションの区切りを撤去し、開放的な多目的ホールに変わりました。

改修で使いやすい講義棟になりましたので、学生教育だけでなく学会、研修会等にご活用ください。

国際学会

第18回国際障害者歯科学会

8月24日(木)から26日(土)まで、スウェーデンのイエテボリで開催されました第18回国際障害者歯科学会に参加しました。

今回の学会では、エピネフリン添加の2%リドカインとエピネフリン無添加の3%メピバカインが障害者の循環動態にどのように影響するのかをポスターで発表しました。スウェーデンの若い女性歯科医師より質問があり、その先生の施設では3%メピバカインが使用されていないようで、メピバカインそのものに関する質問でした。また、他の発表内容では、抑制下歯科治療に関する演題から、日帰り全身麻酔下歯科治療、障害者の遺伝子に関する研究、HIVに関する研究まで幅広く、その上、WHOのサポートも見受けられるため、近い将来大きくなる学会と感じました。

最後に、今回のこの貴重な経験をもとにして、これからも日々の研究に精進していきたいと思います。

(川合 宏仁)

**第5回 Korea-Japan Symposium for Clinical Information on Parenteral Drugs (韓・日臨床注射情報シンポジウム)**

2006年7月8日(土)～9日(日)韓国ソウルで開催された第5回韓・日臨床注射情報シンポジウムに参加したので報告する。

最初にこのシンポジウムについて簡単に説明する。山形大学病院の仲川義人先生を会長とした日本注射薬臨床情報学会は、輸液栄養に関する日本における薬剤師中心の学会である。韓国にも同様な会があり、韓国での会長アサンメディカルセンターの盧教授と仲川義人教授との話し合いにより、日本、韓国において1年おきに合同で開催することの話がまとまった経緯がある。第1回目は韓国ソウル大学を会場として2002年5月に開催された。第2回目は山形、第3回目は韓国ソウルオリンピックパクテル、第4回目は仙台そして今回となる。私は第1回目から日本における事務局を担当しており、本学に異動してからは日本注射薬臨床情報学会副会長として仲川会長を補佐することになった。そういうことで今回のソウルでの開催には1題演題をエントリーした。今回の議長はソウル大学の孫博士であり、孫博士は韓国病院薬剤師会の会長でもある。今回日本からの参加者は鹿児島大学病院、岡山大学病院、金沢大学病院、香川大学病院、山形大学病院、武庫川女子大学、奥羽大学など30余名であった。韓国からはソウル大学、アサンメディカルセンター、サムソンメディカルセンター、キュング大学メディカルセンターと全国の病院薬剤師が参加した。開催5回目にもなるとお互いの意思が通じ合うようになり終始熱心な討議がなされた。日本と韓国の違いは意外と知られておらず、例えば日本では高カロリー輸液調整加算は薬剤師の技術料として算定されるが、韓国では輸液のコンサルトをすることで算定されるという違いにも驚かされた。韓国に行くたびに日本の医療というよりアメリカの医療に近い感じがして、学ぶべき点が多いと思わされる。来年は第6回の開催になるが、両国会長の間で4月21、22日に本学での開催の合意が得られ、今から準備に取りかかっている昨今である。関係各位のご協力よろしくお願い申し上げます。

(東海林 徹)

Optics & Photonics (国際光工学会主催 国際会議) 2006

私は、薬学部に着任して以来、線型時不変フィルタを通して観測された時空間的に離散的な標本値を用いて入力信号の全体像を復元する問題において、幾つかの自然な仮定の下に、近似誤差に関する様々な尺度の上限値を一斉に最小化する最適性をもつ離散内挿近似理論の研究を進めてきました。

この度、重み付きエネルギーが平均的に規定値以下となる確率的な入力信号をノイズのない標本値から復元する問題と、ある程度性質が既知のノイズが重畳した標本値から確率的でない入力信号を復元する問題のそれぞれにおいて、上で述べた最適性をもつ近似理論の構築に成功しました。

この研究成果をそれぞれ12ページの研究論文2編にまとめ、SPIE学会が開催する国際会議 Optics & Photonics 2006に投稿したところ採録され、発表する事ができました。この国際会議は、平成18年8月13日(日)から17日(木)にかけて米国カリフォルニア州のサンディエゴコンベンションセンターで開催され、2600件以上の論文が発表されました。

私は8月12日(土)に現地に到着し、14日(月)と15日(火)に発表を滞りなく済ませることができました。発表後は、他の近似法との比較に関する質問などがあり、用いる標本値の集合が同じであれば、非線形近似を含んだ極めて広範囲の近似法と比べても近似誤差の尺度の上限値においては負けない事などを説明し



ました。

また、フロリダ大学のマーク・シュマルツ博士とアリゾナ大学のジェームス・スクール先生とお話することができ、信号処理技術に関する最新の知見が得られました。

(木田 雄一)

第57回国際電気化学会年会

8月27日(日)から9月1日(金)までの6日間、イギリスのエジンバラ近郊のヘリオット・ワット大学で開催された第57回国際電気化学会年会に参加し、研究発表を行いました。

エジンバラはイギリス北部のスコットランドの中心部に位置し、18世紀に都市計画が始まったニュータウンと、石畳の旧市街にわかれ、豊かな緑に囲まれた世界遺産都市です。街の中心にはスコットランドで最も有名なエジンバラ城が、玄武岩の丘の上に、市街を見下ろすように佇んでいました。また、街のあちこちでタータンチェック・キルト柄のスカートをはいた紳士が、バグパイプを奏でていました。

本年会では世界各国の電気化学に関する研究報告がなされ、10のシンポジウムで1,000件以上の論文が発表されました。日本からも多数の研究者が参加し、その中の一人として「固相合成中での炭素-炭素結合生成反応が可能な基質固定化修飾電極の作製」と題して研究発表を行い、関連する研究分野の多くの研究者の方々ともディスカッションする機会を得ることができました。特に、電気化学的手法を用いた固相合成反応の第一人者であるフランスのジャンク・シモネット博士(レンヌ第1大学)からは今後研究を進めていく上で多くの有益なアドバイスを頂き、充実した学会参加となりました。

(柏木 良友)

奥羽大学文学会第49回発表会

文学会第49回発表会が、9月14日(木)、4時40分から5号館537教室で開催された。榊原直文教授による「フランス語接続法について—佐藤房吉先生のお考え」という演題の発表であった。

佐藤房吉先生は本学文学部の開設とともに学長に就任される予定であったが、その直前に急逝された。本発表では、佐藤先生の業績の精華であるフランス語接続法の研究が紹介された。「文頭の接続法」という、先行する諸理論がいずれもうまく扱いかねていた事例を考察の出発点とすることにより、先生の接続法研究は論理的な整合性と説明原理としての有効性とを獲得することができた。最も例外的と見えたものの中に、本質を知るための鍵が隠されているという着眼は、佐藤先生のすぐれた学問的直感を示しているばかりでなく、言語学研究を越えてひろく学問研究の規範となるものであろう。

(江島 宏隆)

私が薦める一冊の本

『Biostatistical Analysis, (by) Jerrold H. Zar.』
(Prentice-Hall, Englewood Cliffs, N. J.)

1993年、私がUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)に留学間もない頃、メジャーな雑誌への投稿の不採択の一番の理由は“統計の誤り”であることを知り、私の留学は統計の勉強に始まりました。UCLAに日本の統計学書があるわけもなく、当時、UCLAで薦められたのがこの本です。ただでさえ統計学は難解なのに、よく英文の統計学書を読む気になったと思います。しかしながら、こつこつ読んでいくうちに、少しずつ理解できるようになりました。実は、どの統計原理も義務教育の数学力で十分理解できるのです。斯くして統計は理解できましたが、当時の統計ソフトは実用に耐えず、上記の本を参考にExcel上で演算をプログラムして、どんな統計も行ってきました。それが時間の経過と共に市販の統計ソフトに匹敵するに至り、2000年に統計ソフト添付で「なるほど統計学とおどろきExcel統計処理」の初版出版に至りました。現在、既に改訂第5版となり、海外からの要望で英語版も出版予定です。

この書によって、私の研究や人生が開けたのは言うまでもありません。“社会では一夜漬けは通用しない。こつこつ積み重ねることが大切”ということ、この本から教わった気がします。

(山崎 信也)



同窓会

歯学部同窓会

4月に開催された第44回定時総会において北海道同窓会の会長に再任されました3期の青木です。また3年間よろしく願い致します。

今年の春は北海道歯科医師会初の会員による会長直接選挙ということもありまして、改めて「同窓会とは何だろう」と考えさせられる局面が幾度もありました。何事においても革新的な北海道ですが歯科界だけは学閥の古臭い慣習がそこかしこに残っております。各地区の支部長さんもお苦労されていることと思います。

さて北海道における会員数は149名ですが、昭和59年卒の7期生までは順調に増えていった会員数も徐々に減り、今年は新卒の新入会員がいなく歓迎会もできない状態です。執行部は私を除き4期・5期・6期生を中心にそれより若い会員を交えて活動しております。年に10回の理事会の他、部会や他校との懇談そして事業をとおして会員相互の親睦を図っております。事業を紹介してみますと総会・臨時総会・学術講演・一般講演（歯科関連以外）・2回の社保講習会・2回の広報誌と名簿発行・ゴルフコンペ・会員家族親睦会・ボウリング大会などですが、3年前に会費の値下げと合理化で年間の予算は200万円ほどで運営しております。

北海道は学会の開催も頻繁にあるところですので、教室の皆さん他県支部の皆さん、来道するときは声を掛けてくださいね。そして北海道出身者が帰ってきたときは必ず連絡してください。同窓会はきっとお役に立てると自負しております。

(北海道同窓会会長 青木 秀志)

歯学部同窓会学術奨励賞のお知らせ

このたび奥羽大学歯学部同窓会では、「同窓会学術奨励賞」を設けることになりました。現在、多くの会員が全国で活発な学術活動を続けています。本賞は、そのような活動の一層の活性化を期待して作られました。40歳未満の会員であれば誰でも応募することが出来ます。奥羽大学以外の大学教員、大学院生の方でも応募可能です。もちろん、開業されている方でも勤務医の方でもまったく問題ありません。今回は、平成17年と平成18年の2年間に発行された歯科医学とそれに関連する領域の学術雑誌の筆頭著者を対象としています。応募締め切りは来年の3月31日(土)です。申請書の入手や問い合わせなどは、同窓会事務局までお願いします。受賞者の選考は会員以外の歯科医学研究者も含む選考委員会で、論文の学術的価値に基づいて厳正におこないます。

本学の大学院では、社会人特別選抜制度が実施されることになりました。この制度によって、社会人の方が在職のまま大学院生として学位を取得することが可能になりました。会員の中でもこの制度の利用を考えている方も多いと思います。一つのテーマを掘り下げて研究をおこなえる大学院生という立場は、優れた学術論文を書き上げる絶好の機会です。社会人大大学院生になった方は、ぜひ発表した論文を応募して下さい。

さまざまな学会や歯科医師会などで、学術賞が設けられるようになってきました。しかし、同じ学舎で学んだ同窓生にとって、同窓会員から祝福を受ける本賞は他の賞では味わえない喜びを受賞者に与えるものになると思います。第1回目の受賞者は、来年の同窓会定時総会で発表される予定です。どうかその日を楽しみにして下さい。

(同窓会副会長学術担当 清浦 有祐)

同窓生のひろば



田中 富雄

(歯学部5期生)

いつも本学報の届くのを、楽しみにして居ります。あい前後してキャンパスを共にされた同窓であれば、写真等で学生時代のことをなつかしく思い起こすことができるからでしょうか。というのも、私は5期卒業です。開業してから早、22年が経とうとしています。やりたい事、覚えたい事は山ほどたくさんあります。しかし日々の診療の慌ただしさ、友人たちとの夜の一杯、事務に目を通したり、給料を渡したり、気が付けば今月もまたあつという間にレセプトの締め切りというあり様で、またたく間に1ヶ月が過ぎ、とても1年が早く感じられる年回りになって来た実感しています。そんな中、休みはきっちり決めて、旅行を試みたいと思うのですが、自分で計画を立てて実行することはとても無理なことではないでしょうか。

私はこの10数年、1期生の岩渕先生率いるスタディグループにお世話になって居ります。勉強、臨床、実習、苦手なコンピュータ等色々な分野の研究に参加しています。そんな関係で、インプラントの海外セミナーにもまた加わる機会を得ました。年1度は無理としても、世界中で行われる学会等は大きな満足と仕事に向うエネルギーを十分に与えてくれます。昨年は本学歯周病教授の岡本先生とご一緒させて頂き、スウェーデンのイエテボリにてのセミナーに参加することが出来ました。すばらしい季節に、充実したセミナーを設けて頂いた事、とても有意義な体験でした。今後も目標として年に1度は、このような体験が出来るように努力していきたいと思えます。地道ではありますがこういった機会を作ることによって視野を広げ、情報を取り入れ、より各分野でのエキスパートの先生と連

携を深められれば、大きく仕事に反映出来るのではと考えます。

私たちを取りまく環境は、益々厳しく困難な時代になっていくことだろうと思います。そんな中、我々は情報を交換し合い、常に治療にあたる上で最善の方法を自信をもって出来るよう、同窓会一致団結して乗り切って行きましょう。私は常々、歯科医師として活動できる機会を与えて下さった本学に深く感謝し、今後も本学同窓として、誇りをもって仕事にはげんで行きたいと思えます。

今後も本学と皆々様の益々のご発展とご健勝をお祈りします。



佐藤 京子

(日文科6期生)

卒業後は学習塾に就職しましたが、大学で学んだことを活かしたいと思い、日本語教師の道に進みました。現在はベトナム・ハノイ外国語大学日本語学部の日本人教師として赴任しています。

赴任当初は習慣や文化の違いにストレスを感じることもありましたが、慣れとは恐ろしいもので、今ではすっかり適応しています。ハノイでは大型のスコールが降ると道路が水で溢れます。そんな時ベトナム人はまず靴を脱ぎ、裾をまくり、何の躊躇もなく水の中を歩いて行きます。その光景に驚いていた私も、今では当たり前のようにやっています。(水が汚いので、破傷風が心配ではありますが…)

大学の日本語学部には平均3名の日本人教師がおり、基本的に日本人は日本語のみで授業を行っています。といっても、これが通用するのは2年生以上。日本語が未知の1年生にとっては、基本文型・語彙を習得するまで媒介語の使用が必要となってきます。ここでいう媒介語とは英語、ベトナム語、中国語にな

ります。学生のほとんどはベトナム人ですが、他国の学生も数名おり、言語の壁を感じることもあるため、絵や表現を取り入れています。苦労は多々ありますが、教え子が日本語を話す姿に誇りを感じています。私自身、ベトナム語はゼロの状態です。赴任しましたので、授業はおろか買い物での値段交渉などは今でも四苦八苦していますが、学生たちはとても親切なので助かっています。また、どんなに忙しい時や疲れている時でも、学生たちの素直で無邪気な笑顔を見ると嬉しくなります。

学生たちは非常に真面目で、記憶力が良いという印象が強いです。また、手先が器用で、ほとんどの物は修理してしまいます。(それはもう無理だろう…というものもありますが) そのように物を大切にする一方で、エコロジーやリサイクル精神はまだまだ…例を挙げれば、詰め替え製品などはほとんどありませんし、ゴミの分別もありません。

ベトナムは現在もお他国のODAが必要な国ではありますが、外国語を習得する学習者に加え、年々日本語学習者も増加し、大勢のベトナム人が日本企業での就職を希望するようになりました。希望の理由はそれぞれですが、日本語を習得したことによって、より良い日越の関係を築いてくれることを私は期待しています。

最後に、来年は卒業して10年目の年になります。この記念すべき年に文学部閉鎖という現実に複雑な心境ではありますが、4年間の思い出は消えることはありません。指導教授、友人たちに感謝しています。

－ハノイ外国語大学日本語学部 勤務－

余 滴

〔(社)日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医〕

専門医制度は、平成14年に厚生労働大臣告示159号として基準が示され発足している。現在42学会が資格認可を受け、歯科領域では日本口腔外科学会が平成15年に、日本歯周病学会が平成16年に専門医認可が受理された。国に認められたということである。

当初は、口腔外科を専攻しているものの、私には必要なものかな?という程度の認識であった。規則では、指定研修機関で6年研修・100例以上の全麻下手術の執刀・入院管理40例の詳細な報告・5編以上の学術論文の発表および学会発表が条件である。書類審査に合格すれば、筆記試験・口述試験を受けることとなる。私も卒業して10年が経ち、口腔外科を専攻していた証として受けてみようというのが地獄(大袈裟だが)の始まりであった。

講座の先輩の反省から書類の作成は前年の12月から始め、ほぼ毎日PCとのにらめっこ状態であった。それでも終了したのが今年の3月と少し冷や汗ものであった。4月30日の提出期限にも間に合い、書類審査も合格するものと勝手に試験勉強を始めた。これが辛いものであった。試験勉強から遠ざかること10年あまり、長時間机に向かい教科書を開くということの辛さ。普段は5年生や6年生に言っていることが…。「人間楽はいけない」と言い聞かせ、また、平成20年度からは規則条件が厳しくなるため「今年の合格を」など様々なプレッシャーとの格闘が続いた。幸いにも書類審査は合格し、7月に筆記試験・口述試験も終了した。8月には合格の便りにて晴れて専門医である。これは当講座教授の御指導はじめ講座の皆様の協力の賜である。今後も講座から継続的な国が認める専門医の誕生を願うばかりである。

(小板橋 勉)



学校法人晴川学舎 平成17年度決算報告

事業の概要 (カッコ内は学部)

〈教育研究について〉

1. 新たなカリキュラムによる総合臨床実習の実施 (歯)
2. 共用試験への取り組み (歯)
3. 平成18年度から必修化される臨床研修指導体制の整備 (歯)
4. 大学院教育の見直し (歯)
5. 外部評価の結果に対する対応
6. 奥羽大学公開講座を4回開催 (歯・薬)
7. 公開セミナーの開催 (薬)
8. 学生による授業評価 (歯・薬)
9. 歯科医師臨床研修指導歯科医講習会 (2回) に参画実施 (歯)
10. 教育資質の向上を図るため東北地区認定実務指導薬剤師育成ワークショップに参加 (薬)

〈管理運営について〉

1. 薬学部の入学定員200人を替えずに6年制課程への移行についての、奥羽大学収容定員関係学則変更認可申請をして、9月30日に認可を受けた
2. 薬学部設置に係る認可後の履行状況を報告した
3. 施設・設備の充実
学校用地2,479㎡を取得、防災設備、第二講義棟便所、基礎棟 (第4号館) 校舎等の改修工事、及びテナスコートの改修工事、更にデクシーシステムほか1,235点の教育研究用機器備品等の整備
4. 事務組織の改編

決算の概要

①消費収支計算書

消費収支計算書

平成17年4月1日から18年3月31日まで

(単位：千円)

消費収支計算書は、平成17年度の消費収入と消費支出を示し、経営の状況を表しております。

平成17年度の予算と決算を対比して、消費収入の部の学生生徒等納付金、補助金、事業収入の科目は、決算額が予算額を上回りました。学生生徒等納付金は、薬学部の開設により学生数が増加したことで、決算額が予算額を84,286千円上回りました。経常費補助金も同様に決算額が47,834千円上回りました。附属病院収入などの事業収入は、決算額が54,792千円上回りました。一方、検定料を含む諸種の手数料は、入学志願者の減少により15,622千円減収したほか、資産運用収入と雑収入の合算で7,114千円減収しました。以上の結果、帰属収入合計は、決算額が予算額より183,010千円上回りました。

消費支出の部の人件費は133,789千円、教育研究経費は76,603千円、管理経費は43,414千円、決算額が予算額を下回りました。

当年度は292,471千円の収入超過となりました。

科 目	予算額	決算額	差 異	構成比
学生生徒等納付金	3,407,565	3,491,851	△84,286	74.86%
手数料	71,846	56,224	15,622	1.21%
寄付金	2,858	21,692	△18,834	0.46%
補助金	330,848	378,682	△47,834	8.12%
資産運用収入	108,778	104,936	3,842	2.25%
事業収入	506,601	561,393	△54,792	12.04%
雑収入	53,087	49,815	3,272	1.06%
帰属収入合計	4,481,583	4,664,593	△183,010	100.00%
基本金組入合計額	0	0	0	
消費収入の部合計	4,481,583	4,664,593	△183,010	100.00%
人件費	2,679,269	2,545,480	133,789	54.57%
教育研究経費	1,358,839	1,282,236	76,603	27.49%
管理経費	569,895	526,481	43,414	11.29%
資産処分差額	15,363	15,363	0	0.33%
徴収不能額	2,563	2,562	1	0.05%
予備費	32,074		32,074	
消費支出の部合計	4,658,003	4,372,122	285,881	93.73%
当年度消費収入超過額		292,471		

②資金収支計算書

資金収支計算書

平成17年4月1日から18年3月31日まで

(単位：千円)

資金収支計算書は、毎会計年度の諸活動に対応する収支（資金の動き）の内容を表したものです。消費収支計算書と重複するものについては説明を省きます。

収入の部の資産売却収入は、遊休となっていた職員宿舎を売却し3,800千円の収入となりました。また、前受金収入と資金収入調整勘定は、新入生の授業料収入等を前年度と今年度に受け入れた資金の動きで、その他の収入は、引当資産の当該年度の繰り入れ収入額です。

支出の部で教育研究費と管理経費が消費収支計算書と金額で相違しているのは、資金収支計算に減価償却額が含まれていないからです。

施設関係支出は、学校用地2,479㎡の購入や第二講義棟便所改修工事等を執行して135,687千円となり、設備関係支出は、デクシーシステム他1,235点の教育研究用機器備品の設備や図書を3,588冊購入して500,471千円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定預金等に繰り入れたもので、その他の支出と資金支出調整勘定は、未払金や前払金等の前年度と今年度分の資金の動きを表したものです。以上の結果、次年度繰越支払資金は、予算額より69,932千円上回り6,136,729千円となりました。

科目	予算額	決算額	差異	執行率
学生生徒等納付金収入	3,407,565	3,491,851	△84,286	102.47%
手数料収入	71,846	56,225	15,621	78.26%
寄付金収入	0	10,730	△10,730	-
補助金収入	330,848	378,682	△47,834	114.46%
資産運用収入	108,778	104,936	3,842	96.47%
資産売却収入	0	3,800	△3,800	-
事業収入	506,601	561,393	△54,792	110.82%
雑収入	53,087	49,815	3,272	93.84%
前受金収入	1,392,000	1,957,452	△565,452	140.62%
その他の収入	1,906,572	1,876,778	29,794	98.44%
資金収入調整勘定	△1,529,215	△1,921,462	392,247	125.65%
前年度繰越支払資金	6,582,970	7,476,847	△893,877	
収入の部合計	12,831,052	14,047,047	△1,215,995	109.48%
人件費支出	2,671,149	2,577,466	93,683	96.49%
教育研究費支出	830,245	746,698	83,547	89.94%
管理経費支出	481,382	398,489	82,893	82.78%
施設関係支出	145,380	135,687	9,693	93.33%
設備関係支出	563,715	500,471	63,244	88.78%
資産運用支出	1,700,000	3,442,420	△1,742,420	202.50%
その他の支出	178,119	278,726	△100,607	156.48%
予備費	300,000		300,000	-
資金支出調整勘定	△105,735	△169,639	63,904	
次年度繰越支払資金	6,066,797	6,136,729	△69,932	
支出の部合計	12,831,052	14,047,047	△1,215,995	109.48%

③貸借対照表

貸借対照表

平成18年3月31日現在

(単位：百万円)

貸借対照表は、消費収支計算書と一体として作成するもので資産及び負債並びに正味財産の状態など、財政状態を表したものです。

資金収支計算書で土地等の固定資産取得について説明しましたので省きます。

その他の固定資産は、退職給与引当特定預金や減価償却引当特定資産等の引当資産19,793百万円を充当し備えています。

流動資産は、現金預金を保有して、学納金等の前受金を含む流動負債2,165百万円の約3倍が確保されております。

また、借入金はなく財政は安定しております。

科目	本年度末	前年度末	増減	構成率
有形固定資産	(13,174)	(13,205)	(△31)	(33.46%)
土地	1,613	1,508	105	4.10%
建物	7,664	7,980	△316	19.46%
教育研究用機器備品	1,543	1,335	208	3.92%
図書	1,876	1,837	39	4.77%
その他	478	545	△67	1.21%
その他の固定資産	(19,904)	(18,169)	(1,735)	(50.56%)
退職給与引当特定預金	1,293	1,250	43	3.28%
減価償却引当特定資産	7,300	7,300	0	18.54%
消費支出準備金特定資産	10,200	8,500	1,700	25.92%
診療用機器引当特定預金	500	500	0	1.27%
第3号基本金引当資産	500	500	0	1.27%
その他の固定資産	111	119	△8	0.28%
流動資産	(6,292)	(7,630)	(△1,338)	(15.98%)
現金預金	6,137	7,476	△1,339	15.59%
未収入金	70	103	△33	0.18%
前払金	63	35	28	0.16%
その他	22	16	6	0.05%
資産の部合計	39,370	39,004	366	100.00%
固定負債	(1,297)	(1,329)	(△32)	(3.29%)
退職給与引当金	1,297	1,329	32	3.29%
流動負債	(2,165)	(2,059)	(106)	(5.50%)
未払金	135	115	20	0.34%
前受金	1,957	1,851	106	4.97%
預り金	73	93	△20	0.19%
負債の部合計	3,462	3,388	74	8.79%
基本金の部合計	23,215	24,782	△1,567	58.97%
消費収支差額の部合計	12,693	10,834	1,859	32.24%
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額の部合計	39,370	39,004	366	100.00%

人 事

<退 職>

白石 千枝 助 手 歯 学 部 7月31日付
鈴木 亨 病院助手 〃 8月31日付
大道 美穂 〃 〃 〃

<定 年>

橋本 勝一 講 師 歯 学 部 8月21日付

慶 弔

<結 婚>

おめでとうございます。

○加藤 史仁 歯学部 病院助手 5月5日
○小野 哲也 薬学部 助 手 6月21日

<訃 報>

謹んでお悔やみ申し上げます。

- 総務部 箱崎 秀勝
実父 箱崎 勝雄 殿 (74歳) 7月31日
- 学事部 佐藤 道子
実母 佐藤 ツギ 殿 (79歳) 8月14日
- 総務部 箱崎 秀勝
実母 箱崎 幸子 殿 (62歳) 8月16日

<委員会からのお詫びと訂正>

前号(108号)14P「藍綬褒章受章」9行目に表記の間違がありました。

- 誤 — ことを示されています。
- 正 — ことを示しています。

歯学部 畑孝一教授及び青木義孝文学部長には、大変ご迷惑をおかけ致しました。

謹んでお詫び申し上げ、訂正させていただきます。



行事予定

平成18年

10 月 October	11 月 November	12 月 December
13(金) 奥羽祭前夜祭 14(土) ・15(日) 奥羽祭 14(土) ㊦㊧保護者懇談会、 ㊨共済基金委員会 公開講座 15(日) オープンキャンパス 20(金) ㊩キャリアガイダンス (1年) 21(土) ㊪大学院Ⅱ期入試	1(水)～9(木) ㊫推薦入学試験 出願期間 1(水)～12/8(金) ㊬学位論文申請 6(月) ㊭キャリアガイダンス (2年) 6(月)～21(火) ㊮推薦入学試験 出願期間 10(金) ㊯企業人事担当者 との懇談会、 公務員ガイダンス (1・2年) 11(土) ㊫推薦入学試験 13(月) ㊫推薦入学試験 合格発表 25(土) ㊮推薦入学試験 28(火) ㊮推薦入学試験 合格発表 29(水) ㊪大学院学位記 授与式	8(金) ㊰㊱日本学生支援 機構奨学生受領資 格確認 11(月) ㊲臨床総合講義終了 (6年) 13(水) ㊰㊱日本学生支援 機構返還説明会 16(土) 創立記念日 18(月) ㊳後期授業終了 18(月)・19(火) ㊴第1回卒業試験 (6年) 19(火)～25(月) ㊳後期定期試験 23(土)～1/8(月) ㊵冬季休業 (5年) 23(土)～1/10(水) ㊵冬季休業 (1～4・6年) 25(月)～1/8(月) ㊵冬季休業 26(火)～1/8(月) ㊶冬季休業

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先/奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報109号 (通算No.234) 平成18年9月15日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp